

All you need is love. 「愛こそはすべて」は世紀の大誤訳？

このフレーズ（歌のタイトルでもある）は特にビートルズ (The Beatles) のファンではないという方でもご存じかと思われます。この歌の訳詞が最近になって「世紀の大誤訳」として一部で物議をかもしているようです。

その前に、そもそもこのフレーズがなぜ「愛こそはすべて」になるのでしょうか？ 英語としての観点から見れば、このフレーズの構造はまさに本書で扱う「接触節」（あるいは関係詞の省略）です。

- All you need is love. ⇒ All \wedge [you need ●] is love.
「あなたが必要とするものすべては愛だ ⇒ 君に足りないのは愛だけ」
（ \wedge や●についてはp.005の凡例を参照してください）

問題となっているのはこのフレーズに至る部分の歌詞で、関係詞を含む部分の誤解により、日本人の間ではまったく正反対の意味で長年理解されてきたというものです。すなわち、日本人はこの歌の伝えなかったメッセージを取り違えたまま、何十年も聴き歌ってきたことになります。（詳しくは本文p.131をご覧ください）

まさに「**関係詞がわからないとビートルズも聴けない**」のです。

本書の内容は、英語を仕事や日常生活で必要としている方、英語教師の方、TOEIC® など各種試験の受験を考えている方、そして大学受験を目指す諸君など、英語を極めたいと思っている方々すべてに資するものとなっています。

本書は以前、『超・関係代名詞マニュアル』（プレイス刊）として出版したものを改め、全面的に加筆修正したものです。おかげさまで前著も多方面で御高評をいただきましたが、今回は新たな情報も追加してパワーアップし、それ以上の完成度となっております。前著をご覧になった方にもそうでない方にも、きっとご満足いただける内容と信じております。

英語に「受験英語」とか「実用英語」といった2種類のものが存在するわけでもなく、ましてや「英会話」に「英文法」は必要ないなどという俗説は誤りであるというのが、かねてからの私の持論です。批判されるとすれば、それは「受験英語」ではなく「英語指導法」であり、また「文法」ではなく「どうでもいい文法用語による無意味な分類」であると私は考えます。

本書を手にする皆さんが関係詞に対する見方を再発見することにより、さらに一層理解を深め、英語に対する知的好奇心を深めていただければ、これに勝る喜びはありません。

本書に記した内容で、関係詞を実際に使いこなす際の問題点はあらかじめ解決できるはずですが、さらに関係詞を含んだ手ごわい英文に挑戦したり、発展事項に触れてみたいという向学心旺盛な方は、拙著『実は知らない 英文誤読の真相88』（プレイス刊）をはじめとする「真相シリーズ」をご覧くださいいただければと思います。

2011年7月

佐藤 ヒロシ

